



流れの
先に

しろいし 首石レンコン

～筑後川が注ぐ有明海の土が育む産物～



栽培開始は大正 11 年

レンコンは、ハスの地下茎が育って肥大化したもので、煮てよし、焼いてよし、ホクホク、シャキシャキの食感がたまりません。穴が開いていることから、「見通しがきく」ということで、おせち料理や祝い事にも欠かせない食材です。

佐賀県は収穫量全国第3位のレンコン生産県です。福富町（現白石町）では、大正11年に栽培が始まり、昭和22年に福富町出荷組合を結成して以来、「しろいしレンコン」の一大産地となりました。

水の管理と良質な土壌

取材先のレンコン畑に向かうと、レンコン農家の塘三四十つみよとさんがレンコンの収穫の真っ最中でした。レンコンは蓮田はすだという泥沼の中で育ちますが、底なし沼のような深さかと思いきや、そうでもなく、水深は10～20cmとのこと。でも、掘るときは、腰まで

筑後川は、筑紫次郎の愛称で知られる大河で、北部九州中央部を西流して有明海へと注いでいます。古くから筑後川下流部では潮の干満を利用した取水（淡水取水）の仕組みや平野部でのクリーク（用排兼用水路）などの水利施設が造られ、水田などの灌漑が行われてきました。

水資源機構では、筑後川水系で6事業を完成させ管理を行っており、佐賀県内においては佐賀平野を潤す筑後川下流用水により、海水が混じらない水を安定的に供給しています。

今回は、筑後川の水が育む有明海の土壌で育ったレンコンの産地・佐賀県白石町を訪ねて、旬を迎えたレンコンを取材しました。



レンコン農家の塘さん



収穫作業の様子。奥にあるのが水圧掘りの機械。

水に浸かるそうです。

塘さんは、レンコンの生産には水の管理が欠かせないと言います。「レンコンは、生産時だけでなく、収穫時にも水が必要です。生育初期から中盤にかけては、特に水が足りないと生育に影響するので、水をたっぷりと張った蓮田で育てて、時々水の入替えをします。米と比べると、はるかに多くの水が必要で、水田の外に水が流れ出ていないか見回ることも大切です。」

収穫は意外な手法で行います。「以前は干上がった泥沼の中をクワで掘り起こす方法が主流でしたが、現在では水はそのままにしてホースで勢いよく泥の中に水圧を加えて泥を飛び散らせ、レンコンを浮かび上がらせる水圧掘りが主流です。」

そして何より、良質な土壌が、おいしいレンコンの重要な要素です。塘さんは、すぐ背後にそびえる古い干拓の堤防跡を指差しながら、「有明海を包み込むように広がる白石平野は、長年の干拓によって広がった農地で、“重粘土質”という有明海のミネラル分いっぱい肥沃な柔らかい土壌です。レンコンの節に付いた泥を全体に薄く伸ばし『泥付きレンコン』として出荷することで、乾燥せずに長持ちします。」と話します。

苦勞がつきものですがメリットも

レンコンの生産には苦勞も多く、「ひょうが降ったりして葉が痛むと生育に影響してしまうし、台風が夏の早い時期にやってくるとその年はもうダメですね。収穫する時も、ゴム製胴長を着てレンコン畑に入っている作業なので、夏は汗がダラダラ、冬は寒さが身に凍みます。」と塘さん。

一方で、レンコン栽培の大きなメリットは、生育が止まるといつでも出荷できるということです。レンコンの生長時期は春から秋の彼岸の期間とほぼ同じで、その後は休眠状態になります。塘さんがレンコン畑を指差して、「ほら、葉っぱが枯れてきている



レンコン畑の説明をする塘さん

でしょう。あれが、休眠状態に入った印です。休眠後は、その状態が維持されていつでも出荷できるんです。」と笑います。



出荷作業の様子 (JA さがの出荷施設)

知ってびっくり！レンコンの力

栄養がなさそうなレンコンですが、それは大間違い。ビタミンCはレモンの約2/3あって、便秘に有効な食物繊維も豊富で、コレステロールを吸着して排出してくれたり効果満点。「レンコンは栄養たっぷりなので、これからの寒い時期にはどんどん食べてもらいたいですね。うちのレンコンは、農薬をほとんど使わずに育てているので、安心して食べていただけます。」と塘さんも太鼓判を押します。

見通しがきくようにと縁起が良いレンコン、塘さんは今日も食べる人の幸せを願いながら、レンコン作りに励んでいます。

今回の取材では、JA さがの皆様にご多大なるご協力をいただきました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

JA さがのホームページでは、今回ご紹介したレンコンのレシピなどを紹介しています。是非ご覧ください。

<http://jasaga.or.jp/agriculture/nousanbutsu/renkon>

読者プレゼント

「しろいしレンコン」
5名様



今回取材にご協力いただいた塘さん自慢のレンコンを読者の方5名にプレゼントします。

ご希望の方は、①住所②氏名③性別④年齢⑤電話番号⑥このコーナーを含む本誌の感想を記入の上、ハガキにて下記までお申し込みください。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2
独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締切 平成26年11月30日(日)(消印有効)

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。